

感染症とのたたかいはつづく

この冬の動向が心配 新形肺炎（SARS）

この冬、中国や東南アジアで大流行した新形肺炎（SARS）に世界はふるえあがり、感染力が非常に高く、死亡率も高いことから、中国や香港への旅行客は激減して中国経済は大きな影響をうけました。病気の原因はSARSウイルスによるものだと分かったものの、治療用のワクチンはなく開発にはまだ時間がかかることとみられています。風邪と同

様に気温がさがる冬場に流行することが考えられるので、この冬の動向が心配です。SARSウイルスがどのようにして生まれたのか、まだ特定されていませんが、たぶん動物をとおして人に感染するようになったと考えられています。

ウイルス感染症の治療が難しいのは、ウイルスは細菌よりはるかに小さく電子顕微鏡をつかわないとみることができません。ウイルスは細胞に

感染して自分の遺伝情報で細胞のDNAを組み込み、乗っ取った細胞をつかって増殖します。その結果、細胞は破壊されます。

ウイルスの治療がむづかしい理由は、ウイルスがひんぱんにその構造をかえるため、せつかくワクチンを開発しても期待したほどの効果がでないことにあります。エイズウイルスをなかなか退治できないのはそのためです。

細菌感染症では耐性菌が生まれる問題が

一方、細菌による感染症も依然として深刻な問題です。結核やのどは細菌が原因でおこる病気で、病原菌はそれぞれ特定されています。治療には通常抗生物質が使われますが、抗生物質にたいする抵抗力をもった菌が生き残り、耐性菌が

つまれることが問題点です。こうなるいままで効いてきた薬が使えなくなり、抗生物質の開発には時間と費用がかかるため、製薬メーカーの中には抗生物質の製造から撤退するところもあるそうです。

日本では感染症と果敢にたたかひ、病気の原因菌を究明して国民の公衆衛生に力をつくしてきた伝統があります。たとえば北里柴三郎は破傷風菌の純粋培養に成功して、化学処理によつて破傷風菌の毒性をやわめた菌を注射して、体内でその毒を中和する抗体をつくる血清療法を発見しました。

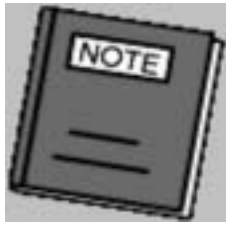
北里柴三郎の門下には赤痢菌を発見した志賀潔などがあります。ところが感染症はもはや克服されたといつて病原菌の研究を軽視する傾向があつて、大学から病原菌学関係の研究室が消え



北里柴三郎（1852-1931）

し、法受の、ペ大見清学傷の、に発血医破そ査菌をの・や。調細菌ア学アたを、風リ理リットど、破傷生テ行スな、に（一で開し見残中）ジェル発たす留グノ同の行発を、学共法流を績、ン年療で菌業、1901清港トな、ドベで賞血香スキ

てしまったところが多いといふことです。しかし未開だった地域（主に筑前地方）に人がどんどん進出することによって、未知のウイルスや病原菌に接触する機会はむしろ増えているといわれています。感染症による危険性は増加していると考えたほうがいいのではないのでしょうか。（つづく）



続 僕の講義ノート



大阪府立大学先端科学研究所

森 利明

(もりとしあき)